真っ赤な下着

訪問時間に少し遅れた私に
風邪引いて来れんがかと思うて
心配しよった　と塗られた
口紅から語られた

その口紅ののりがいいね　という
他愛ない私の一言に
化粧するの忘れちょった
と言うと同時に
両手にばらまいたおしろいを
万年床の上で塗りたくる

一瞬お化けかと思われた顔が
サッときれいになる
夏は薄着で肌をさらけ
私をどきどきさせ
今げらげら笑ったかと思ったら
スカートから真っ赤な下着が
はじけた

女性のたしなみをなどとは言わない
むしろあなたを苦しませている
内面の幻覚を忘れて
私に交わろうとする無防備さが
とても健康に思えて
ありがたいのだ。

笑い

入院中
激しい興奮や攻撃
そのあまりの激しさに
どんな優秀なスタッフもが舌をまいた
そんなあなたが地域生活に挑み
既にまる三年となる
この間私は欠かすことなく訪問を続けた
そのたびあなたは耳がもぎとられ
鼻が腕が千切れさらには
腸がねじれ飛び出すという
苦しさを訴え

無力な私は何も出来ぬ
自分に耐えつづけた

一方私の顔を見るだけで笑い
どんな事を喋り
どんな仕草をしても
笑う門には福きたると笑い飛ばした
私のまつ毛にキスしたい
そう言って私を驚かせ矢張り
げらげらと笑う

その言動にしがない
訪問看護師の私はどれだけ
救われてきたことか。

安堵という錨

最近死にたい気持ちが薄れゆう
あなたのその台詞につい言いたくなる
「よかったね」を抑えた
それがあなたにどんな意味があるの？

そりゃあ中途半端に長生きして最後は
独居で寂しく死ぬきいかなあ

ここから分かり得る事は
あなたが恐れている事は具合がよくなる
イコール明るい未来ではなく

回復し生き延びることで
この苦しい現実をつづけなくては
ならないという恐怖ではないか
あなたの望みはこの苦しい現実から
逃れ異界への希望をもつ事なのだ

この状況で私が出来る事を咄嗟に考える

具合が良くても悪くても結果は同じだし
遅かれ早かれ神様が迎えに来るんだから
楽しく待った方が楽じゃない？

ここであなたは初めて
「今」という瞬間に
安堵という錨をおろした。

感謝

死にたいと繰り返すあなたが
ふと遠くを見つめ私に訊ねる
看護師さんは何を励みに生きゆうで？
この台詞に私はあなたの
無意識の「生きたい」を嗅ぎ取る

そうだなあ　やっぱり家族かなあ

私らあ病気やし家族はおらんし

でも大事な友人や仲間は？

Cちゃんか……それだけやいか

Cちゃんはあなたの存在にどれだけ
救われていると思う？
自然に相互信頼や尊敬し合えてるじゃない

Cちゃん一人だけやいか

隣人に手を差し出せる人が初めて
その手を周りに拡げられるんだよ

良いことして死ぬにはどうしたらえい？

ここであなたの生活という現実が

私との間に視え始める

既に良いこと一杯しているんだから
それに気付くことじゃないかなあ
私の訪問受け入れていただき
楽しいおしゃべりも付き合ってもらい
私の仕事への貢献までしてくれてるよ

こっちこそどればあ助かっちゅうか

いつの間にかあなたの口から
感謝の言葉が溢れだす。

おせっかい

精神疾患の症状に苦しむあなたが
癌になって死にたいと願をかける
ある日あなたが「癌になった」と告げる
悪い冗談かと思ったがそれが
消すに消せない事実だと分かった時
私はあなたの訪問をあとどの位
つづけられるのかと危惧した

一般病棟への入院をいつかは
余儀なくされるだろうと考えたが

あなたは最後まで入院しないと主張し
私は
可能な限りこの地であなたと
かかわり続けることを覚悟した

あなたの動揺は見てとれた
意識下では「嬉しい」と喜び早く
苦しみを解き放ってくれる
異界に逝きたいと言いながらも
同時にこの味気ない苦しみの現実に
動揺し嘆き続けた

こうしてあなたは死を希求し
徐々に身体は蝕まれていった
さまざまな専門家たちが

今なら助かるのにと残念がる中
みすみす命を放棄する道を選んだ

私はあなたの無意識の「生きたい」を
これからいかに刺激できるかという
使命を担うこととなる。